



第 8 号

平成25年 3月15日(金) 発行

編集・発行

アカデミア・コンソーシアムふくしま事務局

〒960-1296 福島市金谷川1番地
福島大学 地域連携課内

電 話 024-548-5295

メー ル acf@adb.fukushima-u.ac.jp

URL http://acfukushima.net/

災害復興教育のカタチを模索中

アカデミア・コンソーシアムふくしま
企画運営委員長 清水 修二

「災害復興学」の本を編集集中です。発行元は山形大学出版会になる予定で、執筆陣は山大・福大・宮城教育大の教員、「南東北国立三大学」の連携事業の1つです。山大では昨年度から災害復興学の授業を開講していて、今年度、本の執筆者が順に1コマずつ講義を担当しました。そのつど学生諸君の感想とあわせて質問も出してもらい、講師がそれに文書で答えるという双方向の授業です。

福島県内でも「復興学」や「復興支援学」に類する授業がいくつか開講されており、講師の相互派遣も行っています。福島県では「復興」の歩みがかなり特殊性を帯びていますし、時間もかかります。放射能に関する知識の度合いや認識の違いが復興の障害になっている側面も特殊です。「防災教育」とはちがう「災害復興教育」は、神戸のケースをはじめとして前例がないとはいえないと思いますが、原子力災害がテーマになるのは日本ではもちろん初めてですから、全く新しいチャレンジです。

つい先日、ACFの事業で25人の学生諸君と一緒に三宅島を訪れました。島では福島からの訪問者ということで大いに歓待してくださり、親密な交流を持つことができました。二十数年ごとに噴火を繰り返す火山と「共生」している島の人たちの表情は、決して暗くはありませんでした。4年5ヶ月にわたる避難中、コミュニティをしっかりと維持してきた経験には学ぶところが少なくありません。しかし避難の前後で格段に高齢化が進んだというのは、福島の場合を思い合わせるとき、大変「重い」事実です。

三宅島に行くのに先立って、学生たちは川内村を訪問しました。ACFのフィールドはあくまでも県内ですから、川内村を舞台に学生の手で何かできることはないかと、いま村当局と相談しています。なにも川内村に限ることはありません。桜の聖母短大の学生が取り組んだ南相馬市でのイベントもあります。「現場で実践」の連携教育活動を、来年度はさらに大きくしていきます。

大学間連携共同教育推進事業

◆ 川内村の訪問・調査に

行ってきました!!

平成25年2月25日(月)、福島市内が大雪に見舞われた中、参加学生17名(奥羽大・桜の聖母短大・テクノアカデミー郡山・福島医大・福大・放送大)、引率3名(福大)で川内村へ訪問・調査に行きました。川内村は原発事故によって、全村避難し昨年4月帰村宣言をして、現在は住民の約4割が村内で生活しています。村では住民が一日も早く戻ってこられるように「新しい村づくり」を始めたことを、復興対策課の井出課長から説明していただきました。いわゆる周辺自治体からの自立です。川内村では村内で医療・雇用・教育・福祉を充実させるための努力を始めました。その例として、今回訪問した(株)菊池製作所などの企業誘致による雇用創出や、医療福祉施設ゆふねでの診療科目の増加、野菜の水耕栽培を可能にする工場の建設などです。原発事故は川内村にとって、通過点であり新しい方針へと変換するきっかけとなったといえます。

◆ 合宿型討論会を開催しました!!

言うまでもなく、「強い人材」の育成を行うためには「強い人材」像の明確化が求められます。3月2日(土)・3日(日)に開催した合宿型討論会では、参加者(企業人、高等教育機関の教職員・学生)がそれぞれに「強い人材」像を描けるようになること、「強い人材」へと成長するために必要なこと、それらを他の人に伝えられるようになることを目標にして2つの活動を行いました。

ひとつは、「社会人」の方からの話題提供です。ふくしまの今を拓いている「強い人材」のモデルとして、福島キヤノンの深澤氏と、NPO法人芋麻倶楽部の尾崎氏を講師に迎えました。深澤氏からは、組織のリーダーとして「企業が求める人材」という観点から「強い」ということの意味について考えさせられる刺激的なお話をいただきました。尾崎氏からは、NPO法人という道を選んだきっかけを自伝的に語っていただきました。どちらの話題提供も、今までに持っていなかった視点や考え方を気づかせてくれるものでした。参加者と講師の「キョリ」が近く、活発な質疑応答が行われることで、次の活動(グループワーク)への大きな示唆を得られました。

ふたつ目の活動がワールド・カフェです。ワールド・カフェとは会議室のようなフォーマルな場所で行

われるような議論よりも、カフェのような自由でオープンな場所での会話の方が、気づきやアイデア、目標に対するヒントが得られやすいという発想の下に考えられた話し合いの手法です。手前味噌になりますが、一言、大盛況でした。講師の方にも参加いただき、立場を超えての自由な意見交換が行われました。沢山の人たちの協力の下、この合宿は成功したと確信しています。連携事業の情報発信も始まりました。本事業のWEBページや報告書にて、その時の様子をごらんいただければ幸いです。

◆ 本連携事業の ウェブ上での広報について

このほど、「ふくしまの未来を拓く『強い人材』づくり共同教育プログラム」の取組みを、各大学の教職員・学生さんに加え、多くの県民の皆さんなどに対しても紹介できるように、本取組みのウェブサイトを開設しました。開設から日も浅く、まだすべての実績を紹介できておりませんが、このニュースレター「れんけい」と併せて、これから情報発信の場として活用していく予定です。

なお、併せて「アカデミア・コンソーシアムふくしま」のウェブサイトも移転しました。これに伴いURLが変更となりますので、お知らせいたします。

【ふくしまの未来を拓く「強い人材」づくり
共同教育プログラムのウェブサイト】

→ <http://acfukushima.net/u-renkei/>

【ACふくしまのウェブサイト】

→ <http://acfukushima.net/>

◆ 平成25年度の調書について

平成24年度の文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」に採択された、「ふくしまの未来を拓く『強い人材』づくり共同教育プログラム」について、このほど平成25年度の調書を提出しました。この中には、連携各校様よりお寄せいただいた具体的な事業のご提案も数多く含め、また平成24年度第3回事業推進会議でお寄せいただいたご意見も踏まえ、平成24年度に申請した当初の方針に基づいた事業計画と、それに必要な費用が記してあります。

提出した調書については、2月26日付けで電子メールによって各校様にお送りいたしましたので、こちらの内容をお確かめください。

なお、併せて現在各校様の年間スケジュールについて、お伺いしております。各校様のスケジュール上のご負担が少なくなるよう、次年度は事業を推進いたしますので、年間スケジュールとご意見を併せてご回答賜りたく存じます。

福島県内大学等への風評被害対策事業

◆ 事業のまとめ・ふりかえり

平成24年度に福島県からの委託により実施した「大学等への風評被害対策事業」につきましては3月末日をもって完了となります。ご協力いただきました関係者様には厚く御礼を申し上げます。

昨年7月に全国の高校進路指導担当者を対象としたペーパーベースでの『震災・原発影響調査』アンケートを実施し、続いて10月には高校生・保護者を対象としてWEB上でアンケート調査を実施しました。

調査の結果、福島県に対するイメージには、原発事故による放射能への不安が未だ払拭されていないことがうかがえます。これについては、今後、正確な情報提供を行いながら、適切な対応が必要であると考えています。一方で、進学については、「行きたい学部があるかどうか」が生徒の進路選択の際にはより重視されていることもうかがえます。この点を踏まえ、生徒が学びたいと構えている分野から、県内の学校選びができるように構成したWEBサイトを3月26日に公開する予定です。

また、昨年10月から11月にかけて、県内及び近隣県の進路指導者に向けて、県内学校の現状への理解を深めていただくため、『体感！ふくしまの大学ツアー』を実施しました。時期的に少人数でのツアーとなりましたが、ACF加盟学校様のご協力もあり、参加者ひとりひとりとじっくりと腰を据えたお話が出来たのではないのでしょうか。実施後アンケートでも各学校様の熱心な取り組み、地域への思いが伝わってきたとのこと意見が多々寄せられました。このツアーに合わせて、県内の大学等からのメッセージを載せたリーフレット「福島力」を作成し、全国の高校に送りました。

本委託事業での取り組みが、福島県及び福島県内の大学等への理解が広まる一助となり、大学間連携共同教育推進事業の「強い人材」づくりに繋がることを期待されます。

コラム ～ ACふくしまの事務局から ～

石橋を叩くことのすすめ

事務補佐員 高橋 雅子

事務を担当している高橋雅子です。今後ともどうぞよろしく願います。

子どもの頃から非常に活発で起きている間はほぼ動いているような私もいい歳になり、近頃はやっと座って仕事ができるようになってまいりました。ただ、やはり性格はそうそう治らないようでガッツで考えなしに行動してしまうところが多々あります。石橋を叩きもせず、目視だけで突っ走っていくような性格の私が仕事をしていく時には必ずしっかりとした方々が周りにいて、支えてくださいます。この事務局の同期のKさん、Tさんもそのお二人で聞いたところによると彼女達は石橋を叩いて叩いて渡らない時もあるとか、ないとか…。いつも私の仕事を二人がしっかりとサポートしてくださいますのでまた私はそれをいいことに、長〜い助走をつけながら石橋を突っ走っていくのであります。私の事は嫌いになっても、ACFの事は嫌いにならないでくださいっ!!

次号は4月15日（月）の発行予定です。